

“水の都”松江にIT開発交流拠点施設誕生

“オープンソース・ソフトウェアに関する技術、情報の交流拠点”

『松江オープンソースラボ』7月31日(月)オープン

“新たな地域ブランドの創造に挑戦”

『Ruby City MATSUE』プロジェクトを展開

“ Ruby City MATSUE プロジェクト ”
『松江オープンソースラボ』 7月31日(月)オープン

7月31日(月)、“水の都”松江の新しい街の顔として、JR松江駅前に『松江オープンソースラボ(松江市開発交流プラザ)』がオープンしました。

中心市街地であるJR松江駅前に、時代の潮流である、オープンソースソフトウェア(OSS)に特化した、研究・開発・交流のための拠点として、『松江オープンソースラボ』を設置しました。

この『松江オープンソースラボ』を拠点として、オープンソースソフトウェアに関わる企業、技術者、研究者、学生、ユーザーが交流を深めることで、技術・競争力の向上と優れた人材の育成を図るとともに、新たな市場の開拓による本市の産業活性化と地域ブランド(Ruby City MATSUE)創造に取り組めます。

< 松江オープンソースラボの施設概要 >

【所在地】 松江市朝日町478番地18

松江テルサ別館2階

【開館時間】 平日の午前9時30分から午後7時

事前の利用申し込みにより、休館日の利用及び利用時間の延長も可能です。

【休館日】 土日、祝日、年末年始(12月28日から1月5日)

【利用料】 無料

松江オープンソースラボにおける5つの事業の柱

1. 地域・開発コミュニティの場の提供
2. 産学官連携の推進
3. 人材の育成
4. 地域ブランドの創生
5. 情報発信基地



本日、松江市の中心に位置する JR 松江駅前、新しい街の顔として、オープンソースソフトウェア（OSS）に関する研究・開発・交流の拠点『松江オープンソースラボ』を開設しました。

この『松江オープンソースラボ』の開設は、これから松江市が進める『Ruby City MATSUE』プロジェクトのスタートでもあります。

『Ruby City MATSUE』プロジェクトとは、地域再生の活路を見出すため、本市に蓄積する知的財産や地域資源を活かした新たな地域ブランド創生事業です。

人口減少の時代をむかえて、すべての地域が同じように拡大していくことは困難です。これからは、明確な差異化戦略をとった地域のみが持続可能な都市として自立できます。

そして、差異化戦略こそ地域ブランドの創造にほかなりません。

こうした中で、本市が目にしたのが世界的に有名なプログラミング言語『Ruby』であり、その開発者である『まつもとゆきひろ』氏です。

今後、Ruby の普及を図るため、『Ruby City MATSUE』プロジェクトを推進し、各種事業を実施していきたいと思えます。

本日オープンした『松江オープンソースラボ』が開発・交流の拠点として、全国のオープンソースソフトウェアに関わる企業、技術者、研究者、学生、ユーザーの皆様が集い、交流が行われ、さらに、技術・競争力の向上及び人材の育成が図られ、全国の OSS 開発の拠点となることを期待しています。

そして、松江を世界に誇れる「Ruby のメッカ」にしたいと考えています。

最後になりましたが、本日の松江オープンソースラボの開設にあたり、『Ruby City MATSUE』プロジェクト構想にご賛同頂きました、開発者であるまつもとゆきひろ氏をはじめ、多くの皆様方のご理解とお力添えに心よりお礼申し上げます。

平成 18 年 7 月

松江市長 松 浦 正 敬



オープンソースとはソフトウェア開発の手法のひとつで、ソフトウェアの設計図にあたる「ソースコード」を他の人が自由に無償で利用できるように公開することです。これまでのソフトウェア産業ではソースコードは他の人には見せないように隠しておくものでしたが、オープンソースは逆転の発想で、みんなでソースコードを共有し、みんなで発展しようという考え方です。

オープンソースが現実化してきた背景にはいろいろありますが、ひとつにはソフトウェアの「コモディティ化」があります。ソフトウェアが日常生活のすみずみにまで行き渡り、日用品のようにありふれたものになると、ソフトウェア開発のために使えるコストはどんどん少なくなります。そうするとソースコードを隠して自分だけで開発するよりも、みんなで協力して低コストで高品質のものを開発することを目指す方が賢いことになります。

オープンソースを現実のものとした理由のもうひとつはインターネットの発展です。インターネットを使えば、物理的・地理的な制約から解放されます。日本にいても海外の人と協力してソフトウェアを開発できます。そうすると国籍も地域も関係ありません。そこで重要なのは、「どこにいるか」ではなく、「どれだけ熱意があるか」、「だれとつながっているか」です。

これは松江市のような地方都市にとっても有利に働く可能性があります。ここには豊かな自然と恵まれた住環境があります。またオープンソースに賭けてみようという熱意のある人々もたくさんいます。

「松江オープンソースラボ」に結集した人々のパワーを集結することで、東京中心の地域格差をはねかえし、松江に独自のIT文化を確立できることを期待しています

平成18年7月

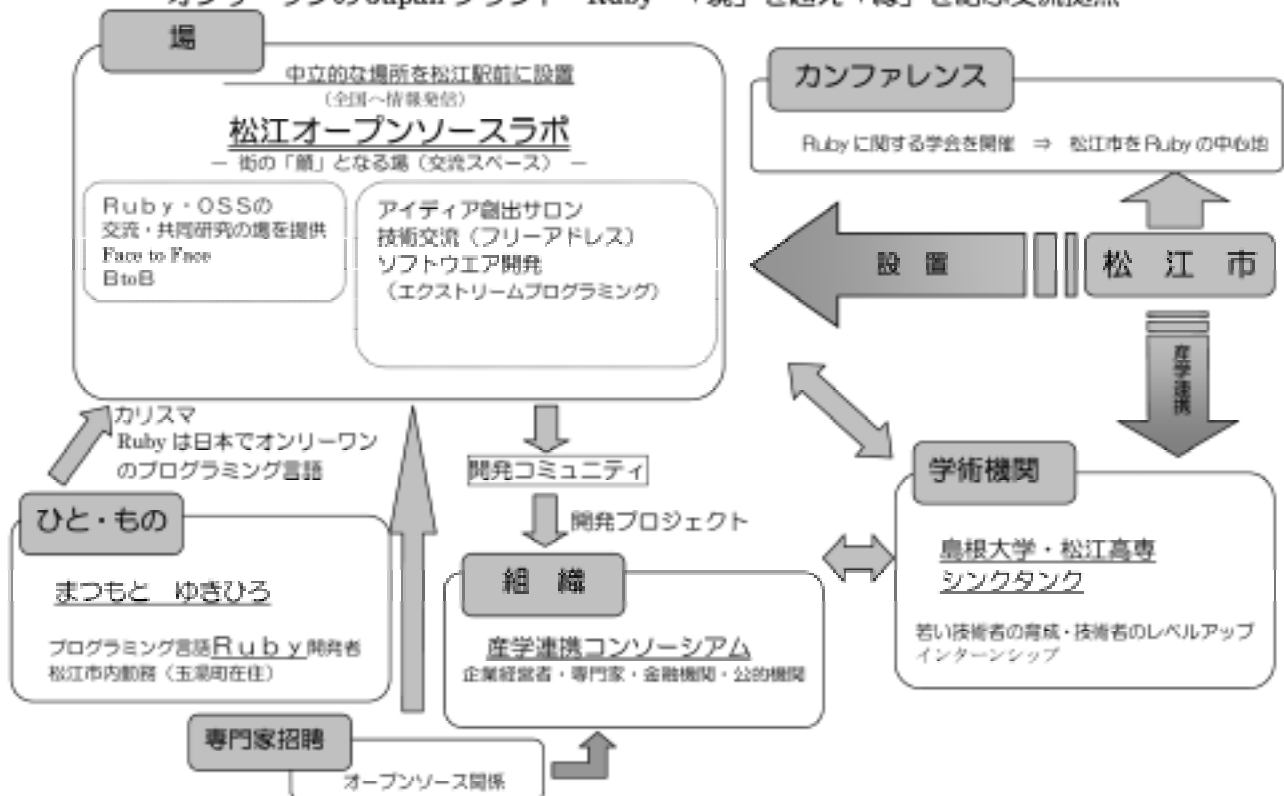
まつもと ゆきひろ

Ruby City MATSUE プロジェクト

オープンソースソフトウェア（OSS）に関する研究・開発・交流の拠点『松江オープンソースラボ』での活動をベースに、松江市は地域再生の取り組みとして、プログラミング言語「Ruby」をテーマとした新たな地域ブランド創生に向けた『Ruby City MATSUE』プロジェクトを展開していきます。

Ruby City MATSUE プロジェクト オンリーワンのJapan ブランド“Ruby”「境」を越え「縁」を結ぶ交流拠点

-- 地域ブランドが街をつくる --



※OSS...Open Source Software の略。自由な利用・修正・複製・再配布を認めた上で、プログラムの設計図を公開しているソフトウェアのこと。

※Ruby...松江市に本社のあるネットワーク処理技術研究所に勤務する、まつもとゆきひろ氏（玉湯町在住）が開発したオープンソースソフトウェア（OSS）プログラミング言語 Ruby（1994/2024 誕生）のこと。誕生以来、メーリングリストなどを活用した技術者たちの交流・開発が世界的規模で続けられ、Web やデータベースのシステム等に活用されている。

本件に関するお問い合わせ先

松江市商工課

〒690-8540 島根県松江市末次町86

TEL.0852-55-5518

FAX.0852-55-5553

ホームページアドレス

<http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/sangyou/sangyou/open.html>

E mail アドレス syokou@city.matsue.shimane.jp

担当者：土井 松岡